



「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」

ロシア武道代表団日本招聘事業

ロシア武道代表団 交流演武沖縄大会・兵庫大会

10月29日から11月5日の8日間、「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の一環として、ロシア武道代表団日本招聘事業（主催＝日本武道館・日本武道協議会・全国都道府県立武道館協議会・ロシア連邦スポーツ省・ロシア武道連盟・日露青年交流センターほか、後援＝外務省ほか）が行われた。来日したロシア武道代表団66名は、10月31日に沖縄県豊見城市の沖縄空手会館で、11月3日に兵庫県姫路市のウイंक武道館（兵庫県立武道館）で、それぞれ日本側開催県の武道団体とともに武道交流演武大会を行った。同時にロシア武道代表団による体験交流も実施され、日露両国の友好親善に大きな足跡を残した。

本招聘事業は、9月10日、ウラジオストクで行われた日露首脳会談直後の共同記者会見で、ロシアのプーチン大統領から那覇・姫路にロシア武道代表団を派遣すると言及されたことでも話題を呼んだ。

日露の武道を通じて

両国の交流を推進



佐喜眞望

沖縄県武道連絡協議会会長



川村裕

外務省沖縄事務所特命全権大使



ユーリ・トルトネフ・ロシア連邦副首相



臼井日出男日本武道館理事長

ロシア武道代表団交流演武 沖縄大会



マス・レスリング



ブヘ・バリルダーン



アムール地方伝統格闘技



コレッシュ



臼井理事長（左）が
沖縄空手会館に到着したトルトネフ副首相を出迎えた

な身体を作り、精神も強くしていきます。武道は勝敗を決めるだけのものではありません。基本となつているのは、相互の礼、謙虚、誠実、正義です。それは選手だけではなく国家の間でも同じで、友好を育むことにつながります」と挨拶。

続いて、日本側主催者を代表して、臼井日出男日本武道館理事長が、「本年5月にモスクワ・ボリシヨイ劇場で行われた『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』の開会式において、日本武道館の伝統行事『鏡開き式』を披露しま

した。安倍、プーチン両首脳が挨拶をされ、日露両国の招待者が1000名を超える中、両国首脳が観覧され、その模様は国営テレビで放送されてロシア全土で大きな反響を呼びました。そして、10月には日本武道青年代表団がロシア・ハバロフスク市を訪問し、武道演武大会、体験交流会、武道セミナーを行い、日露の相互理解と友好の輪が大きく広がりました。今回お招きしたロシア武道代表団の8種目は、連邦各地から選出された伝統武道であります。ぜひロシアに伝わる武道の真髄を鑑賞していただきたいと思ひます。日本側からは、沖縄県空手道連盟の皆様による一流の演武を披露していただきます。今回の演武大会を通じて日露両国の友好がさらに強固なものとなるよう心から祈念いたします」と挨拶を述べた。

次に、来賓の川村裕外務省沖縄事務所特命全権大使は、「『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』の枠組みでは幅広い分野で交流事業が行われています。その中で武道は非常に大きな役割を果たしています。今回訪日されたロシア代表団の皆様におかれましては、沖縄の魅力、そして武道の魅力を存分に楽しんでいただければと思います」と述べた。

続いて、玉城デニー沖縄県知事の祝辞を富川盛武沖縄県副知事が、「ロシア武道代表団の皆様におかれましては、先人たちが創造した伝統武術を保存継承されていることに對し、深く敬意を表するとともに、武道を通して平和交流を深めるため、沖縄にお越しいただき心より感謝申し上げます」と代読した。

佐喜眞望沖縄県武道連絡協議会会長は、地元武道連盟の統括団体を代表して、「今回見学に来られた方々は、ロシアの武道を体験することを楽しみにしております。また日本側の演武者も全力で稽古してまいりました。本大会を通じて日露友好に貢献できることを光榮に思ひます」との挨拶を述べ、開会式は終了した。

演武大会では、はじめに沖縄県武道連絡協議会の演武が披露された。沖縄小林流空手道協会、上地流空手道拳優会、沖縄伝統古武道保存会、劉衛流、沖縄剛柔流空手道協会、松林流の順で、独自の技法を秘めた各

沖縄大会では、日本武道館とともに沖縄県立武道館と沖縄県武道連絡協議会が中心となり、演武大会を企画・運営した。大会2日前の10月29日には沖縄県が大会の記者会見を実施。その模様は沖縄県の新聞・テレビで報道された。

◇

10月31日、開演時間である午後5時前、沖縄空手会館には地域の空手の道場に通う児童などを中心に、およそ500名が続々と来場した。

開会式では、吉野喜信日本武道館振興部長が開会を宣言。続いて、両国国歌吹奏が行われた。

ユーリ・トルトネフ・ロシア連邦副首相兼極東連邦管区大統領全権代表がロシア側主催者を代表して登壇し、「ロシアのプーチン大統領と日本の安倍首相の間で、2018年を『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』とすることが決められました。ロシア武道連盟にとって、日出づる国、日本は特別な国です。多くのロシアの選手は武道を稽古し、日本の文化・歴史を学んで優れた選手になっていきます。そして、私たちは一所懸命に学び、より強



まで観覧。時に大きくうなずきながら日露の演武に魅入っていた。

全ての演武が終了した後、ロシア武道代表团による体験交流が会場を8つのフロアに分けて行われた。来場者たちは興味ある種目のもとへと三々五々に集まり、列を成してロシア各地の伝統武道を体験した。

なぎなたを稽古しているという女子高校生（16歳）は「ブヘ・バリルダインを体験。「すごかった」とブヘ・バリルダイン特有の相撲に似た体術の体験を上手く言葉で表現できない。考えながらも「一つ一つの動きを覚えてやるのが難しかった」とコメント。日常生活では活用しない体の動きを体験したようであった。

本誌で「空手道」その歴史と技法」を共同執筆中の嘉手苅徹氏は大会を最後まで観覧。「沖縄にも沖縄角力がありますからね。柔術が中心のロシア武術に皆さん興味をもってらっしゃいましたね」とニヤリ顔。

体験武道の熱気が冷めやまないなか、沖縄大会は閉幕となった。

なお、大会の様子はロシア国営放送のニュース番組でロシア全土に放映された。



松林流



劉衛流



上地流空手道拳優会の演武を熱心に観覧するロシア側関係者

ウェルカム・パーティー

沖縄大会前日の30日、ロワジールホテル那覇において、ウェルカム・パーティーが開催された。

パーティーでは、白井日出男日本武道館理事長が主催者を代表して、「この事業は4年前に日露武道交流年記念事業として日本武道館で行われたロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会に始まります。今回はその第2章と言えるでしょう。今年9月に行われた日露首脳会談の共同記者会見では、プーチン大統領は沖縄と兵庫にロシア武道代表団を派遣すると言及されました。まさに日露友好の象徴となる交流事業と言えます」



エイサーの披露

「う」と挨拶を行った。

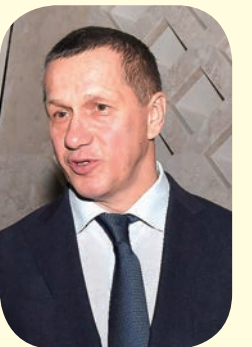
同じくロシア側主催者を代表して、ラミリ・ガバソフ・ロシア武道連盟事務局長が、「日本の武道には1000年以上の歴史を持つものもありますが、ロシアにも長い歴史を持つ武道があります。互いの武道を尊敬し合い、披露することで、ロシアと日本の友好を深めることにつながります」と述べた。

来賓の川村裕外務省沖縄事務所特命全権大使は、「今回のロシア武道団の沖縄訪問を機に県民、さらには日本国民とロシアの方々の相互理解が促進されることを心より願っています」と述べた。

続いて、玉城デニー沖縄県知事の祝辞が嘉手苅孝夫沖縄県文化観光スポーツ部長により代読され、乾杯を佐喜眞望沖縄県武道連絡協議会会長が声高らかに行った。

会ではロシアの伝統芸能「口琴」とともに沖縄の伝統芸能「エイサー」が披露された。最後は全員でチャーシーを踊り、大会に向けて英気を養い、成功を誓い合った。

◎ユーリ・トルトネフ・ロシア連邦副首相兼極東連邦管区大統領全権代表



「空手発祥の地であり、伝統ある沖縄で、このような大会が開かれたことは非常に意義深く、大変嬉しく思います。私も30年来空手を稽古しており、素晴らしい先生方の演武を見られたことは、一修業者として身の引き締まる思いでした。今回、我々ロシアの選手たちの演武を日本の方々にお見せできたことも非常に光栄なことです。これからも私たち、武道を共に修業する者同士から日露両国関係や相互交流をより一層深められたら幸いです」

流派の代表的な「形」が次々と披露された。沖縄空手を代表する高段者による集団演武や、団体形世界チャンピオンで全日本ナショナルチームの劉衛流の団体演武では喜友名諒選手ら3名によるアーナンドイが、一糸乱れぬ精巧な動きで披露された。

演武が終了すると、トルトネフ副首相をはじめロシア側関係者からは大きな拍手が送られた。

続くロシア側の演武では場内を暗くし、様々な民族音楽に合わせてロシア各地の伝統武術、ハプサガイ、マス・レスリング、ブリヤート弓術、コサック武術、ブヘ・バリルダイン、コレッシュ、アムール地方伝統格闘

技、サンボが次々に披露された。ブリヤート弓術、ブヘ・バリルダイン、アムール地方伝統格闘技は、4年前に日本武道館で開催されたロシア連邦民族・伝統武道団交流演武会では行われておらず、日本での公開演武は今回が初めてとなった。

そのブリヤート弓術では、約20m（通常は70m）離れた棒状の的・ケグリ（長さ約8cm×直径約3cm）をめぐらして矢を放つ。小さなケグリに当てていくその技術に、大きな歓声が上がった。

演武が終了するごとに、ロシアの演武者たちへ万雷の拍手が送られた。トルトネフ副首相も演武を最後

第17回兵庫武道祭・ロシア武道代表团交流演武 兵庫大会



西上三鶴
兵庫県教育長



河野修一郎
兵庫武道祭大会会長



セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官



川端達夫日本武道館常任理事



左からボドリャコフ・セルゲイ氏、ノグマーノフ・ラヴィリ氏、ライシェフ・レナート氏、川端常任理事、河野大会会長、西上教育長

のご尽力を得て、ロシア武道代表团との交流演武大会が開催できましたことを大変光栄に思います。兵庫県はロシア・ハバロフスク市と友好提携を結んでおり、この武道交流によってさらに友好の絆が深まることを切に願うものであります」と主催者挨拶を行った。

同じく主催者挨拶として、川端達夫日本武道館常任理事が、「ロシア武道代表团交流演武大会を、国宝・姫路城を仰ぎ見るウイंक武道館にお迎えして開催できますことを大変喜ばしく思います。本日、皆様には

本邦初の本格的な披露となるロシア伝統武術をご覧いただくだけでなく、ロシアの武術・武道を体験していただけるよう、準備をしておりますので、奮ってご参加くださるようお願い申し上げます。ロシア武道代表团との交流演武大会を通じて、日露両国の絆がさらに強固になりますよう心より祈念いたします」と述べた。

次に、地元共催団体から西上三鶴兵庫県教育長が、「本日は、ロシア武道代表団の皆様方に演武を披露していただくほか、兵庫県武道協議会加盟の各団体の模範演武や演武発表を披露していただくこととなっております。普段拝見する機会が少ないロシア古来の武道を身近で観覧していただき、また改めて日本古来の武道にも触れていただくことで、武道の素晴らしさをご堪能いただければと思っております」と挨拶を行った。

続いて、セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官が、「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」では様々な分野において事業が実施されています。今年の8月には、モスクワの競馬場で日本の

流鏑馬の披露があり、モスクワ市民の注目を集めました。10月には、ハバロフスク市で日本武道館による日本武道青年代表団の演武大会が行われました。また10月31日には那覇市で、そして本日、姫路市で交流演武大会を実施します。武道の素晴らしさを十分に発揮されることを期待しております。このような文化的な対話ができることこそ、本物の交流であります」とロシア武道代表团を代表して挨拶した。

その後、来賓紹介、祝電披露、兵庫県武道協議会による武道功労者・武道優良団体の表彰に続き、ロシア武道代表团から日本側主催者への記念品贈呈式が行われ、ライシェフ・レナート全ロシアサンボ連盟第1副会長、ノグマーノフ・ラヴィリ・ロシアコレクシシュ連盟副会長からそれぞれ川端常任理事へ、また、ボドリャコフ・セルゲイ・ドンコサック副隊長から川端常任理事、河野大会会長、西上教育長の三氏へ記念品が贈呈された。

兵庫県武道協議会加盟団体による演武会に移り、模範演武として少林寺拳法、武術太極拳が行われ、その



コサック武術



ブリヤート弓術



ハブサガイ



サンボ

沖縄県での演武会を終えたロシア武道代表团一行は、11月1日に兵庫県姫路市に到着。2日は、世界遺産で国宝の姫路城を観光した後、翌3日に行われる演武大会に備え、会場で綿密なリハーサルを行った。



11月3日、会場のウイंक武道館にはおよそ1000名が来場。兵庫県立武道館では、毎年11月3日に、兵庫県武道協議会加盟の12団体が演武を披露する「兵庫武道祭」が行われ、今回で17回目を数える。今年、兵庫県政150周年の記念事業として、ロシア武道代表团交流演武大会と兵庫武道祭の合同開催となった。

開会式は、溝口利勝兵庫武道祭実行委員会委員長（兵庫県少林寺拳法連盟理事長）による開会宣言で始まった。両国の国歌吹奏の後、河野修一郎兵庫武道祭大会会長（兵庫県武道協議会会長・兵庫県剣道連盟会長）が、「この武道祭は武道の普及・発展を図るとともに、武道を通じて県民の健全育成と文化の向上に寄与することを目的として開催してきました。本年は兵庫県政150周年にあたり記念事業の一環として日本武道館



の留学生たちも参加した。ベトナムからの留学生は「演武を見て、すごく楽しかったです。マス・レスリングは面白くて、体験したけど相手の人が強すぎました。見るだけではなくて、体験できたことが本当に良かったです」と語ってくれた。

体験交流が大盛況の中、田中康博^{たなかやすひろ}兵庫武道祭実行委員会副実行委員長による閉会宣言で会は幕を閉じた。

▽プリカシコフ・ウラジミール氏（サンボ世界選手権チャンピオン）

「温かい歓迎に感謝しました。皆さんがロシアの武道に興味を持っていて、私に教えてくれた。私はコーチとして人に教えることがあるのですが、今回のように皆さんが知りたい、やりたいと言って近づいて来ることは今までにありませんでした。私は小さい頃、柔道をやっていましたが、サンボと柔道は非常に似ているところがあると感じています。柔道は日本で発達したものですから、日本が最高のレベルだと思います。そこから、学べることも大いにあると思っています」



剣道



銃剣道



合気道



少林寺拳法



フェアウェル・パーティーの様子

演武大会後は会場をホテルモントレ姫路に移して、18時30分からフェアウェル・パーティーが行われた。はじめに、川端達夫日本武道館常任理事が、「皆様、ロシア武道代表団の演武、体験交流はいかがでしたでしょうか。今宵は同じ武道を修業する者同士、お互いの友情を深め、交流していただければ幸いです。今回の事業を締め括るこの夜を、十分に楽しんでください」と述べた。

次に、セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官が、「今回の演武会と体験交流の雰囲気は非常に素晴らしいです。私たちにとつ

フェアウェル・パーティー

てこのような交流は非常に大事なものであり、武道における交流は日本とロシアの友好を深めるものとして大切なものだと思います」と挨拶を行った。

続いて、ラミリ・ガバソフ・ロシア武道連盟事務局長が、「今回はこのような素晴らしい事業を開催していただき、関係の皆様へ感謝を申し上げます。満足感を持ってこの事業を達成することができました。武道における日露の交流が、これからますます発展することを期待しております」と謝意を述べた。

その後、河野修一郎兵庫県武道協議会会長による乾杯で、歓談に移った。

会の中盤では、ロシア武道代表団の各種目の団員とロシア武道連盟の役員が次々に登壇し、それぞれが充実した表情で、名残惜しうに日本での思い出を語った。

終了の時間となり、小林二城ウィング武道館館長による中締め挨拶でフェアウェル・パーティーは盛会裡に終了した。

◎セルゲイ・コシロフ・ロシア連邦スポーツ省次官



「正直、姫路でのこの事業がこんなに上手くいくとは思いませんでした。子どもから年配の方に至るまで体験交流に参加してくださり、盛会だったことを大変嬉しく思います。演武として皆さんに見ていただくだけでなく、実際に体験していただくことで自分の技術を分かち合うことができ、代表団の皆さんも間違いなく喜んでいてくれることでしょう。言葉はわからなくても行動や身振りで会話し、お互いの技術を尊敬し合い、分かち合うことができたということが、非常に良かったと思います」

後演武発表として日本拳法、合気道、テコンドー、柔道の演武が行われた。

続いて、ロシア武道代表団による演武が行われ、ハプサガイ、マス・レスリング、ブリヤート弓術、コサック武術、ブヘ・バリルダン、コレシユ、アムール地方伝統格闘技、サンボの順に披露された。

観客は、普段目にするものではないロシアの武道を熱心に観覧し、それぞれの演武が終わる度に会場は大きな拍手に包まれた。

ロシア代表団による演武の後には、引き続き弓道、剣道、なぎなた、銃剣道、空手道の順に演武発表が行わ

れた。

全ての演武が終わると、会場を分けてロシア武道代表団の体験交流が行われた。参加者は500名を超え、言葉は通じなくとも身振り手振りで代表団から技を教わりながら、先ほどまで見ていたロシア伝統の武道の奥深さを体感し、笑顔と笑顔で交流の花を咲かせた。

普段は空手道を習っているという、コサック武術を体験した小学5年生の女の子は「空手だとあんまり物を持たないから、剣が重くて大変だった。でもやってみてよかった」と笑顔で話す。また、今回の演武会には、日本工科大学校姫路校